

# 医療従事者の情報整理を迅速に

チーム 棚池

棚池悠生 / 関口かのん

# チーム棚池



棚池悠生



関口かのん

2022年3月に釣りがしたくて移住してきました

興味あること  
バイブコーディング

## 01.医療現場の状況

---

- ☑医療現場では、**診断前後の業務が年々複雑化**している
- ☑診察・説明・記録・確認など、多くの工程が短時間で求められる
- ☑人手不足や業務過多により、**調べ直す・確認する**余裕がなくなっている

## 02.現場で起きている課題

---

☑若手医師・看護師・医療スタッフが  
「次に何をすればいいかわからない」状態に置かれている

☑病名は分かっても

- ・何を診るべきか
- ・何を説明すべきか
- ・何を記録すべきか

が整理されていない

☑情報が教科書・先輩の経験・紙・PDFに分散している

### 03.なぜこの課題に取り組むのか

---

- ☑この診断前の工程は誰かが教えないと身につかない属人的な領域
  - ☑しかし現場では丁寧に教える時間を取りにくい
  - ☑結果として若手ほど不安を抱え、ベテランほど負担が集中している
- ➡この構造を仕組みで支えたい と考えました。

☑診断の正解を出すAIではなく**判断前の準備を支援する仕組み**が必要

☑現場で求められているのは

- ・正しさより「抜けないこと」
- ・高度なAIより「すぐ使えること」

## 05.このツールが満たすべきこと

---

- ☑病名から必要情報にすぐ辿り着ける
- ☑職種、役割ごとに見る情報を分ける
- ☑忙しい現場でも**考えなくても抜けられない構成**
- ☑説明、診察、記録を分断しない

## 06.病名検索を起点とした5つの画面

### 1.患者説明用画面

図・写真・イラスト中心で説明のズレを防ぐ

### 2.診察アンケート

学会推奨項目を整理し取り忘れを防止

### 3.部位別診察所見

「何を診るか」が一目で分かる

### 4.手術記録テンプレート

コピー可能で記録の抜けを防ぐ

### 5.診察科目整理

新人・他職種でも理解しやすい構成



## 07.システムを使うことでどう解決されるか (Before / After)

---

### Before

人に聞く・探す・思い出す

情報が分散している

抜け・属人化が発生

### After

病名検索 → 必要情報が一括表示

診察・説明・記録が連動

**誰が使っても一定の質を担保**

⇒ 診断前の「迷い」と「抜け」を構造的に削減

## 08. 今回の取り組み範囲

---

対象領域：整形外科

**診断支援・治療判断は行わない**

あくまで**診断前後の情報整理・準備支援に限定**

医療現場の困りごとは「AIの高度さ」より整理されていること

既存ツールは

- ・情報が多すぎる
- ・現場導線に合っていない

「診断前」に特化することで、**価値**が明確になる

## 10. 今後の展開・ゴール

---

臨床研究として有用性を検証

実際の現場フィードバックを反映

他診療科への展開

**医療現場で長期的に使われる仕組みへ**

## 11.社会にどう貢献するか

---

診断前工程を支えることで、医療者の負担を減らす

若手でも安心して対応できる環境を作る

属人化しない医療の土台を整える